

子ども食堂へ届け 「クッキー定期便」

別府大短大食物栄養科の学生



子ども食堂に届けるクッキーを作っている別府大短期
大学部食物栄養科の学生たち＝別府市の同大

【別府】別府市の別府大短期大学部食物栄養科の学生が、子ども食堂を支援しようと手作りクッキーを定期的に届けている。食堂を利用する子どもたちに心を込めて作ったクッキーを贈ることで、食の大切さを伝え、交流の輪を広げる機会になっている。

手作り、食の大切さ伝える



野菜や果物の粉末を使い
クッキーを作る学生たち

栄養士を目指して保育園や幼稚園などで食育活動をする「子どもの食と栄養研究会」の1、2年生15人ほどが中心となり、昨年9月に始めた。当初は食堂でのボランティアを希望していたが、新型コロナウイルスの影響で断念。何とか交流できないかと、クッキーの定期便を思い付いた。野菜が苦手な子どもにも楽しく食べてもらおうと、カボチャ、ホウレンソウ、イチゴの乾燥粉末を生地練り込んだ。ラッピングにはオリジナルのイラストや

クイズを載せ、食への興味や関心が持てるように工夫。現在、市内の「ハスノハ子ども食堂」に毎月1回程度届けている。さらに届け先を増やそうと考えている。

6日、学生11人が同短大でクッキー作りに取り組んだ。植木友梨さん(19)は「野菜をおいしく食べてもらえるよう工夫したい。保育園や子ども園の栄養士を目指している。子どもとつながりを持つ機会にしたい」と話す。

食堂は共働きやひとり親家庭の支援など、子どもたちの居場所としての役割もある。担当する東保美香准教授(41)は「将来栄養士として子どもと関わる学生に、さまざまな食の環境があることを学んでもらいたい」と話した。

クッキー定期便への問い合わせは同短大食物栄養科事務室(0977・66・9655)へ。

(佐藤弘子)

